



学校だより

学校教育目標

3月号(第555号)
令和4年2月28日
横浜市立すみれが丘小学校

〈すすんで みんなで れいをつくして がんばりつづけて おもいあって かがやきつづけるすみれっ子〉
～豊かな人間関係の中で、一人ひとりが自分のよさを十分に発揮し、互いに高め合う子を育てます～

いま終わる 一つのこと

校長 栗原 信一

『一つのこと』

いま終わる 一つのこと	いま越える 一つの山
風わたる 草原	ひびきあう 心の歌
桑の海 光る雲	人は続き 道は続く
遠い道 はるかな道	明日のぼる 山をみさだめ
いま終わる 一つのこと	



寒さの中にも季節は移ろい、春の訪れを感じる季節となりました。一年生が南門の前の鉢に植えたチューリップの球根もこのところの暖かさで新芽が顔を出し春の装いを始めています。

今年度は新型コロナウイルスの影響で、9月には分散登校もありましたが、その後の子どもたちの頑張りのあり、年度内に学習内容も無事終了できそうです。また、一人一台GIGA端末が貸与され、今では授業ですすいと活用している子どもたちを見るとその適応力に感心するばかりです。

上記の詩は、小学校の教師でもあった斎藤喜博氏が作られたものです。毎年、3月になると自然とこの詩を思い浮かべます。斎藤氏は、卒業式における呼びかけ形式の発案者であることでも有名です。この一年の出来事をふり返るとともに次へのスタートに夢をはせるそんな気持ちにさせてくれる詩です。3月は、一年をまとめる時期でもあり、新しい学年への滑走路とも言える大切な月です。現学年で過ごす一日一日を大切にしながら、友達や先生と楽しい思い出をつくり、新たな学年を迎えられるよう教職員一同、子どもたちに寄り添いながら支援していきたいと思っております。

さて、3月18日は、本校第46回 卒業証書授与式となります。最高学年として活躍してきた63名の6年生がいよいよ卒業となります。今年度もコロナ禍にありましたが、できることを工夫しながら、日々を積み重ねてきた6年生。ペア学年の1年生に優しく語りかける姿、委員会、クラブ活動で見せてくれたリーダーシップ、そして、運動会でのすみれソーランの圧巻の演技、子どもたちの様々な横顔が今、思い出されます。まさに最高学年として下級生のあこがれの存在でした。卒業式では、希望をもち、胸を張って、すみれが丘小学校を巣立って欲しいと願っています。『明日のぼる山をみさだめ いま終わる 一つのこと』 6年生のみなさんの前途に幸多かれと祈るばかりです。

今年度、最後の学校だよりとなりました。昨年4月に新任校長として着任して以来、コロナ禍にあり、緊張の日々の連続でしたが、地域、保護者の皆様にもいつも励まされ、ご支援いただきましたことに、今心より感謝申し上げます。現在、学校では、この一年を振り返りつつ、新年度に向けての準備を着々と進めております。『誰もが安心して、安全に、豊かに生活できるすみれが丘小学校』をモットーに学校運営に努めていきたいと思っております。今後共、よろしくお願いいたします。